

【研究主題】 自ら考え、進んで表現する子どもの育成
【副題】 読書プロジェクトを通して

【学校名】 長浜市立 朝日小学校

1 本校の概要

本校は、令和2年度から国語科を窓口に、研究主題を「自ら考え、すすんで表現する子どもの育成」として研究を進めてきた。その中で、自らの学びを支えるためには読書が大切であることが明らかになってきたが、本校では読書が好きでなかったり、読書に集中できなかったりする児童も見受けられていた。

そこで昨年度は、「協働的な学びを通して」を副題として、安心して考えを伝え合える学習集団づくりを前提に、協働的な学習を進める中で児童が主体となる授業の在り方を探ってきた。

そして今年度は、単元目標を児童自身が考え、目標に辿り着くまでに必要な学習活動や単元計画を話し合っ決めてたり、物語文において児童から出た疑問や、学級のみinnで考えたいことを学習課題に据えたりして、主体的な学習態度の育成を目指している。また、読書プロジェクト（読書タイム、本の読み聞かせ、絵本バック活動、読書カード活動）を推進し、児童に読書の魅力を伝え、生涯にわたり学び続ける児童を育成していきたい。

2 取り組んだ内容

(1) 全校一斉読書タイム

毎日、5校時の前に10分間、全校で読書をした。本は自分で好きなものを用意した。私語は厳禁。よい姿勢で静かに読書できるよう指導した。

(2) 本の読み聞かせ

火曜日の朝自習の時間に、読み聞かせボランティアに来ていただき、読み聞かせをしてもらった。毎回楽しいお話を聞かせてもらえるようお願いした。

(3) 絵本バック活動

机の横に絵本バックをかけ、常にその中に本を入れさせた。時間が余れば読書をしていいことを伝え、いつでも読書のできる環境にした。

(4) 読書カード活動

全員が読書カードを持ち、読書の記録を残した。定期的に保護者や担任が点検し、面白そうな本を他の児童に紹介させた。

(5) 親子ふれあい読書の日

PTAとも連携し、毎月第3日曜日を「親子ふれあい読書の日」と位置づけた。毎月メール配信し、家庭でも読書を推奨するよう保護者に協力を願った。

3 活動の成果

全校読書タイムでは、はじめのころは読書に集中できない児童もいたが、次第にいなくなり、後半はほとんどの児童が読書に集中できるようになった。児童が読書の楽しさを実感できるように指導することが大切で、おもしろい本を紹介したり、読み方や、楽しみ方を指導したりした。担任を中心にした根強い指導とその継続が成果につながった。

読み聞かせボランティアの方から楽しい本をたくさん紹介していただいた。おかげで新しい視点で本の楽しさを実感できた。また本の読み方、朗読の仕方を体験的に学ぶことができた。読書ボランティアの読み方を真似する児童もいて、表現力の育成にもつながっていた。

担任を中心に週1回は児童を図書室に連れて行くようにした。常に絵本バックに興味のある本が入っているよう、楽しい本を紹介したり、本の選び方を教えたりした。

読書カードに記録をすることで、読書したことを保護者や担任から褒めてもらうことができた。読書記録がたまっていくことを励みに、読書を積み上げていく児童もいた。自分のお気に入りの本を紹介することで、友達から認めてもらったり、表現する楽しさを味わったりすることができた。

本校は図書館の蔵書数が文部科学省の示す標準蔵書数に満たない学校であるが、この度の助成により新たに18冊の本を購入することができた。購入する本は司書と相談して厳選し、その結果児童に大変好評であった。国語科の授業の並行読書に活用されることもあり、学びを深めることができた。児童アンケートでも読書好きな児童の増加が見られた。

今後も読書活動を推進し、生涯にわたって学び続ける児童を育成していきたい。